

GS03-5 精神科薬剤師外来の取り組みについて

○進 健司^{1,2}, 小林 大介¹, 川尻 雄大¹, 金澤 康範², 神村 英利³, 島添 隆雄¹

¹九大院薬臨床育薬学分野, ²飯塚病院薬, ³福岡大病院薬

【緒言】 飯塚病院では、2015年6月から精神科薬剤師外来を開始し、診察前面談（以下、面談）、検査オーダー支援、ベンゾジアゼピン受容体作動薬減薬支援等に取り組んでいる。今回、薬剤師外来による検査オーダー支援の有用性を検証した。

【方法】 2016年10月から2016年12月に精神科外来で向精神薬が処方され、他施設で血液生化学検査が未測定である患者を対象とした。対象を面談実施患者と未実施患者に分け、検査値測定割合を比較した。面談未実施患者に対し、独自に作成した検査値測定支援シートを用いて検査オーダー支援を行い、シート導入前後の検査値測定割合を比較した。支援を行う検査オーダーは血球数、肝・腎機能、クレアチンキナーゼ、電解質、薬物血中濃度、糖代謝、プロラクチンとした。

【結果】 調査期間における面談実施患者は91名、未実施患者は261名であり、性別・年齢・疾患名に違いはみられなかった。面談実施患者は未実施患者と比べて全検査項目で測定率が有意に高かった。また、シート導入後は導入前と比べて全検査項目で測定率が有意に高かった。さらに、検査オーダー支援によりリチウム製剤の副作用回避に寄与した事例があった。

【考察】 検査オーダー支援により精神科外来患者の検査値測定率は上昇し、副作用が回避された事例があったことから、医薬品の安全性確保に有用な取り組みと考えられる。